

## 7日目

3時半に起床、登山の用意をしますが、明らかに体に疲れが残っています。これですらに登れるのでしょうか。朝食、ミーゴレンですが、あまり食べられません。少し食べて4時半に出発。当然真っ暗なので、ヘッドライトの明かりが頼りです。今日もひたすら登りが続きます。とにかく頑張って前に進むだけです。きつい……。ふと気が付くと手にヒルがたかかっていた。幸いちょっとだけ血が出ましたが、まだ深く吸われていなかったようです。取れました。空が少し明るくなってきましたが、まだまだきつい崖のような登りが続きます。

私は最後に歩いているので、ずっと専属ポーターとマイクのお友達とお兄さんが後ろについてくれています。ポータさんがもう少しで頂上だと教えてくれます。何とか頑張って登ってなだらかな



尾根の上に出ました。頂上です、6時15分、太陽が昇ってきています。標高は標識で1481m、GPSは1534mと出ています。頂上の周り



には N.lowii が生えています。1年ぶりの N.lowii です。この特徴的な壺を見れば疲れが吹き飛びます。専属ポータさんの荷物からカメラを出してさっそく撮影。やはり N.lowii は日の当たる風通しのいい尾根にはえています。しかし、この頂上付近にしかないそうです。でも壺はたくさんついていますし、花もたくさん咲いていました。

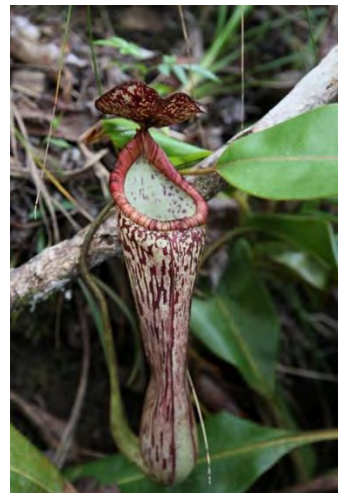


N.lowii は、花が咲きやすいようです。夢中で写真を撮ります。一本だけ N.lowii と N.stenophylla のハイブリッドが生えていました。皆で頂上の標識とともに記念写真を撮ります。本当によく登りました。いつ



までも N.lowii を見ていたい気持ちですが、そろそろ下山の時間のような感じです。7時前に下山を開始、下山ルートは来た時とは違う道を通ります。このルートは通常はルートとして開放されていないところだそうですが、今日は特別にそちらの道を通って戻るようになりました。こちらのルートのほうがランもネペンテスも

多くあるとのこと。少し下るとランの花が咲いていました。黄色の花に茶色の模様が入っています、タイガーオーキッドだと説明を受けます。このルートもかなり険しい道を下っていきます。ここでも N.lowii と N.stenophylla のハイブリッドを見ることができました。途中には岩の崖に張り付くようにして斜めに少しずつ下らなければならないところもあり、ロープが命綱です。岩の崖のところには水がしみだして、そこにウトリキュリアの白い花が咲いていました。またしばらく下ると N.stenophylla がたくさんはえていました。崖にへばりつくように、崖に覆





いかぶさるように茎や葉を広げています。崖脇で窮屈な体勢に耐えながら写真を撮りたくさん撮ります。長細い壺がすくっとあちらこちらに立っていました。その後も急な下り道をすすみ、最後に行きに登った道に出て、シェルターに戻ることができました、9時過ぎ、約4時間半の探検でした。辛かった、疲れた。板の間に寝転がってしばしの休憩です。いや



ーこんなに大変な山だとは思いませんでした。でもまだこれから 1000m 下りの道のりが待っています。大丈夫でしょうか。さて10時前に、今日の夜の便で日本に帰る若者3人組とTさんが、早めに下山するというこ

とで出発です。疲労のあまり、しっかりと挨拶をすることなくお別れになってしまいました。荷物を詰め込んで、私とHさんは10時に出発。下りもつらい…。途中少しづつ休みながら2時間かけて、行きに昼食を取った滝のところまで下りました。ポーターのアビン、ガイドのバリーと一緒にいてくれます。さて、ここからまた少し登って、そのあとはなだらかな下りが続きます。13時に最初に荷物の重さを測った村まで戻ってこることができました。ここでしばし休憩、ポーターのアビン、ガイドのバリーに歩くのが遅くてごめんねと伝え、13時に降りてこれたのはまだ早いほうだとのこと、15時過ぎるグループもあるということなので、我々がすごく遅いということではないということです。ポーターのアビン、ガイドのバリーにはお礼のチップを渡しておきました、とても喜んでいました。しかし何度も言いますが、こんなにつらい山登りになるとは思ってもいませんでした。たぶん、もうマンタポックに登ることはないと思います…。さて、最後にまたつり橋を渡ります、そして4WDによってまたあの悪路を村に向けて走ります。と、このころからなんか嫌な感じが…。確かに疲れてもいたのですが、車がガンガン揺れるのとともに腰が痛くなってきてしまいました。何とか耐えながら村に戻ります。村に戻ってそこでラーメンの昼食、先についていたTさんは、すでに1時間以上くつろいでいたようです。14時過ぎに村を出発、今晚泊まるガイドのマイクの家を目指します。帰り道あらためてマンタポックの山を眺めて、本当によくあんなところまで行ったなーと感慨にふけりますが、腰が痛い…。その後も車に揺られ続け、途中地元の出店で買いものをします。この時点で腰はかなり痛くて、歩くのにぎくしゃくしてしまっていました。4時間近いドライブで、18時にマイクの住む村に到着しました。泊まるのは、マイクの家に向いにある簡易宿泊施設、一部屋に2段ベッドが4つありました。それぞれ自分の荷物を整理して……。しかし、私はこの時に、明日のマライパライ登山をどうしようか本当に悩んでいました。明日も結構な登りだと聞いています。腰は痛いし、疲労もたまっているし、テントも作ったりしなくてはいけないので、この腰の調子ではマライパライの登山は無理でないかと……。かなり悩みましたが、明日のマライパライは大事を取って(登山途中で腰が痛くなって登れなくなったり、動けなくな



ったりしたらそれこそ一大事ですし)、勇気ある決断としてリタイアしようかと思い、マイクに相談してみました。マイクは大変気遣ってくれて、そういうことだったら無理しないで明日はこの村で過ごすのがいいと言ってくれました。マイクもマライパライにはいかないの、村周辺を案内してくれるとのことでした。そして、明後日に問題ないようだったら、途中まで登ってパフィオが咲いているところまで行って、そこでマライパライ登山組と合流しようということで、話がまとまりました。今回の探検の大きな目的がマライパライ探検だったので、リタイアすることは本当に苦しい決断でしたが、まあ、また来年ということもできるし、ここは無理をしないということで、勇気ある決断となりました。HさんTさんにも説明して了承いただきました。持ってきた湿布薬をしっかり張って、腰ベルトを巻いて、とにかく早い回復を目指しました。

## 8日目

朝6時前にあちこちから聞こえるけたたましいニワトリの鳴き声で目が覚めました。病院仕様の湿布薬が効いたのででしょうか、昨日よりは腰の痛みは引いていました。この感じだっ




たら行けるかなとも少し思いましたが、やはり無理することはやめにしました。7時にマイクの家の中で朝食、ここに数件の建物があって、マイクの一族と犬が7頭暮らしています。8時にマライパライのガイドでパークレンジャーのボスでもあるスカイビンさんがやってきました。彼と会うのは6年ぶりでしょうか、私のことは覚えていてくれていました。でも、今日は、腰が痛くてマライパライ行きは断念と伝えると残念がっていましたが、理解してくれていました(この時点でも、まだいけるかなと迷っていましたが)。8時20分にマライパライ組は出発。私はお見送りです。マイクが9時ごろからこのあたりを回ろうと誘ってくれました。

この辺歩くのには問題ないくらい腰の痛みも湿布で治まっていました。9時に出発、マイクの家裏にはパイナップル畑が続いています。かんきつ類やコーヒーも育てていました。この村の名前はギャオというそうです。この村は、今もメイン通りからかなり奥に入った場所にあるので、不思議だなーと思っていたら、もともとはキナバル山の登山口は、この村にあったとのこと。そこで、キナバル山のガイドとかがこの周りに多く住んでいるとのこと。ここから登る登山道には、今の登山道では見られない N.rajar や N.lowii も生えていたとのこと。残念ながらやや危険な場所もあるルートだったので、1985年以降は今の登山道がメインの登山道になったとのこと。パイナップル畑の周りにはえている木はゴムの木だそうです。ゴムの取り方を見せてくれます。専用のナイフで木の表皮を削ると、すぐに白い液が染み出てきます。斜めに削って下端にでっぱり口をつけてその下にカップを下げてカップにゴムの樹液を受けます。ゴムは早朝に削って取るそうです。イノシシも3



頭飼っていました。歩きながら探検で登る山の情報をいろいろ教えてもらいました。入山料がいくらかとか、入山申請して許可が下りるまでどれくらいとか、今後入山許可が取れそうなところとか。あとは、最近は若者は都会に働きに出てしまうので、パークレンジャーやガイドも高齢化が進んできていてあとつぎがないとかの問題も話してくれました。キナバル山がきれいに見えるところに出ました。今年は非常に雨が少なく、いつもとはかなり違う環境だそうです。エルニーニョの影響とのこと。昨年末にマ

ライパライに行った時も水切れで枯れているネペンテスもあったとのこと、キナバル山も宿営地の水が足りなくなって閉鎖していた時期もあったそうです。1998年にも同じような

干ばつの時があって、その時にキナバルエリアにはえていたほとんどの *N.lowii* は枯れてしまったそうです。マライパライにも昔は *N.lowii* が生えていたそうですが、今はないそうです。 *N.lowii* は乾燥に弱いとのこと。マイクの家  
の犬がずっとついてきます。この村は約 100 件の家があるそうですが、ほとんどの家で犬を飼っています。パイナップルをごちそうになります。完熟で取り立てなので、とてもあまくておいしいです。先っぽの葉っぱのところは残しておいて、植えると 2 週間で根が出て植物体になるそうです。木に竹づつが括り付けてあります。そこには小さい蜂が出入りしています。養蜂だそうで、カルルと言うそうです。竹筒の簡素な蜂箱ですが、はちみつは高く売れるので、貴重な現金収入になるそうです。蜂には 2 種類いて、小さい蜂は刺さないそうで

すが、もうひとつは少し大きくて刺すとのこと。村の一軒のうちの前を通ると楽しそうに話している声が聞こえました。今日は国の祝日で、周辺のガイドが集まって朝から宴会をしているそうです。マイクが行ってみようというので付いていきました。8人ぐらいの人が上半身裸でビール飲みながら盛り上がっています。マイクが紹介してくれてみんなの輪の中に入れてくれます。すると一番年上のひとが、お前のことを知っているというのではあ

りませんか！5-6年前に *N.lowii* のある山にお前を案内したというので



す。えー、たまたまに 2012 年に現地のガイドの人に *N.lowii* のある山に案内してもらっているのですが、その人でしょうか？まあ、その人ということで、やあやあ久しぶりということでビールももらって、写真を撮って、料理も進められて食べます、シカ肉のスープだそうです、おいしい。その後も飲んでいると、もっとなんか食べようという話になったようで、カエルを料理しようということになったようです。一緒についていくと、ブロックで作った四角い池に網で蓋がしてあって、そこ

に 8 匹ぐらいの大きな食用ガエルが買われていました。彼らの話では、これは台湾から来たカエルだそうです。(日本の場合はアメリカから来たといわれる食用ガエルですが)。2匹



捕まえて流しに持っていきます。そこでカエルをさばきます。おなかを開いて、ちゃんと内臓も切り分けて、食べる場所とそうでないところを分けています。内臓とってもカエルがはねたりしてびっくり。かなりワイルドな料理の準備です。内臓処理したらそのあとは皮付きのままカエルをぶつ切りに。ぶつ切りにしたカエルと内臓を鍋で煮込みます。味付けはコンソメのような調味料と塩。しばらく煮こんで出来上がりです。お前も食べるという



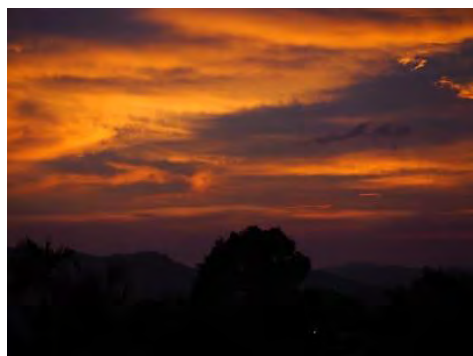
ので食べます。肉はさっぱりしていて、フグのような感じ、おいしいです。皮はゼラチン質でプルプルしてこれもおいしい。うーん、なかなか良い体験ができました。朝からビール2本飲みました。マライパライには行けなかったけどこれで良しとします。12時にマイクの家に戻ってきました。腰が痛いと言っていましたが3時間も村探索しました。おかげで腰もだいぶ良くなりました。湿布薬を張り替えて、おひるごはん。フライドライス

に鶏のから揚げ、アンチョビと野菜炒め、さっき取ってきたパイナップル、おいしかった。食後にはビールももらいました。泊まっているところのテラスでのんびり。ビールを飲んで、おかわりももらって、うつらうつらしてまったり過ごします。キナバルに来てこんなにのんびりしたことはなかったなー。休日ということで、マイクの一



族が集まっていたのですが、16時に子供たちが川に遊びに行くというので、一緒についていきました。小さい子供と僕は車内に、それ以外は荷台に乗って出発、村の下にある川に行きます。大きな岩がごろごろある普通の川です。河原に出る道がいくつかあって、最初のところはすでに先客がいたので、次の場所で車を降ります。草むらを降りていくとそこが少し石で囲われた遊泳エリア。子供たちは9人、3人はお姉さんで3人は小さい

子、小さい子が盛んに水に潜って遊んでいるのをお姉さんたちが順番に面倒見ている感じ。昔の日本もこうだったんだなーという感じ。子供たちがはしゃいでいるのを見て岩の上でくつろぎますが、岩が熱い、日陰の岩を探してのんびり。17時に迎えの車が来ました。大人たちは買い物に行っていたようです。車でビール飲んでいきます。お前も飲めということで1本もらいます。ビールを飲みながら帰ります。下りるときにまた一本もらいました。なんか朝から一日じゅうビールを飲んでいる…。



またテラスでのんびり、昼間は暑いのですが、6時を過ぎて日が沈むと急に涼しくなります。きれいな夕焼けを見ながら今日何度目かのビールタイム、くつろぎます。19時に夕食、またまたビールで乾杯、地元語では乾杯はググと言うそうです。腰の調子もよいので、明日は6時朝食、6時半出発となりました。マライパライには行けませんでした、ある意味いろいろ知ることができてのんびり過ごせた有意義な一日になりました。

ビールは8本以上飲んだし…。

## 9日目

5時20分に起床、6時に朝食で6時40分に出発です。テントはいりませんが、シュラフとマットなどは持っていきます、今日のポーターさんはマイクです。予定としては、マイクが運営しているキャンプ自然体験施設(MIKI Camp)に行き、そこからマライパライに向けて登って、ランが咲いている場所で、マライパライから降りてくるHさんたちを待とうということです。パイナップル畑の道を歩いて登ったり下りたりして進んで、その後森に入ってからかなり下ります。川があります。7時40分に石伝いに川を渡ります。登って降りてもう一本の川、少し長いので、落ちないように木の棒を杖にして石を渡ります。8時にはミキ



キャンプに着きました。備え付けのキャンプがシェルターのような小屋の中にいくつも並んでいて、子供たちなどがジャングル内でのキャンプ体験やサバイバル生活体験ができるような施設です。今晚はここに泊まるので、荷物はここにおいて出かけます。1時間ほど歩いてまた川のところに出了ました。ここにも小屋やシェルターがあって休めるようになっています。この川にはつり橋がかかっているのを渡って、そこからは急な登りになります。ロープなどを使って登っていきます。腰も大丈夫のようです。1時間ほど登って、確かこの辺りとマイクが登り道を外れて、崖のほうに降りていきます。私はひとまず登山道で待機。マイクがあつたあつたと戻ってきました。マイクについて崖を降りてゆくと、岩が露出したがけの斜面にランのパフィオペディラムが咲いていました。全部で5輪は咲いているのでしょうか、とても良い状態です。花屋やらん展でパフィオペディラムはよく見ますが、野生でこれだけ咲いているのを見るのは初めてかもしれません。崖から落ちないようにしながら、マイクと一緒にたくさん写真を撮りました。20分ほど写真を撮っていると、そろそろみんなが下りてきそうだから、登山道の脇で隠れて待とうとマイクが誘ってきました。また登山道のほうにもどって茂みの中で待ちます。声が聞こえてきました。まずはガイドが歩いてきました。少し過ぎたところで、周りの木を音がするくらいにゆすります。ガイドが気付きました。こちらのほうを探して・・・、あっと見つかってしまいました、ガイド



はライフルを持つ構えでこちらを狙って笑っています。ここでとガイドと合流、それから10分ほどして11時には、下山してきたHさんと合流することができました。Hさんたちもランを見た後、腰は大丈夫？マライパライはどうでしたかと話をしながら下山します。12時に吊り橋のところまで下りてきました。ここでランチ。ガイドたちがおかゆを作り始めます。



私とマイクはお弁当を持ってきたのでそれを食べましたが、おかゆも食べろということでそちらもおなか一杯いただきました。皆少しのんびり過ごして、13時半に出発、14時過ぎにミキキャンプに着きました。午後は自由時間ということで、少し休んだのち、スカイビンといろいろな話をしました。マレーシアの環境のこと、鉱山やその跡地のこと、金属を吸収する植物を研究していること、マライパライでも見た各種ハイブリッドのネペンテスのこと、来年行く探検候補地の話など…、来年ももう一回キナバル周辺を探検することになりそうです。2時間くらいお茶を飲みながら話したでしょうか。話し



終わってキナバル山を眺めていたら、Hさんが足元に落ちているハヤ



トウリのようなウリに大きなオレンジ色の虫がたかっているのを見つけました。でかい、日本のカブトムシより大きそうです。オレンジのきれいな色に黒の模様鼻先に長い角があります。ゾウムシだねーと言ってみていましたが、帰ってきて調べても名前がわかりませんでした。角先に小さく突起もあったんで、もしかしたらゾウムシではなくて角ハナムグリの仲間だったかもしれません、どっちにしてもネット

でも同じものは見つからず・・・(新種かな)。18時に夕食、ジャングルでの夕食もこれが最後になります。鶏の煮込み、ワラビーの煮込み、瓜の煮込み、どれもおいしい。19時10分、暗くなったところで、周辺にインセクトツアーに行きます。って、もうキャンプ内の目の前の木にとげとげの太目のナナフシがとまっています。すごくカッコいい。ナナフシはほかにも数種類いてスリムタイプが多かったです。川が近いのでカエルも多くみられます、ガイドが川でカエルを捕まえてきてくれました。でかいコノハガエルです。昨年、トンブユコンでも見ましたが、それとは別物の大きさに手のひらからあふれるほどです。そのほかにも耳がない珍しいカエルなど数種類見つけられました。Tさんが枝から下がっている彼はカマキリを見つけしてくれました。枯れ葉そっくり、これも野生のを見るのは初めてです。1時間ちょっと暗闇の中を探索してインセクトツアーは終了。これもとても楽しかったです。たぶんまた来年も来ます…、今度はちゃんとマライパライに登るために。20時過ぎにテントへ、持ってきたウイスキーを飲んで寝ました、また来年ジャングルで泊まれることを楽しみにして。



## 10日目

6時に起床、テント内の片づけなど。7時に朝食、キナバル山が朝日に染まってきれいに見



えます。マイクがサンヨウベニボタルの雌を捕まえてくれました。生きている三葉虫のようです。7時40分にミキキャンプを出発、川を渡った後の上り坂がきついです。坂を上り切ったところで休憩。その後はイネとパイナップルの畑を通して、9時10分にマイクの家に戻ってきました。犬たちも迎えてくれます。一息ついて、ポーター代やガイドさんたちへのチップを払います。たくさんビールを飲んだので、グループのビール代として100リングットも渡しておきました(まあ私が一番飲んでいるからね。)。頼んでおいた洗濯物もできていました、こちらも精算。スカイビンともお別れです。



来年また何か所かの探検のガイドをお願いするというので、また来年会いましょう。さて、マイクともお別れです。マイクはもう次のツアーのガイドに行くようです。タフです。コタキナバルまでは、マイクのお兄さんが送ってくれました。コタキナバルに戻ってからは、毎回食べているエビラーメンを食べたり、コインランドリー行ったり、市場へ行って、マンゴスチンをいっぱい買って食べたりしてすごしました。夜に空港行きのバンに乗って空港へ。真夜中の夜行便で日本に向かいました。これで2019年のネペンテス自生地探検ツアー報告は終了です。マライパライのキャンセルというアクシデントはありましたが、皆さんの協力もあり、今年も本当に楽しく有意義な自生地探検ツアーになりました。ありがとうございました。今回の旅行参加にも協力してくれ、日本でゲンゴロウの羽化の面倒も見てくれた妻にも感謝です。各種の昆虫や植物を見られ



て本当に充実した10日間でした。楽しかった。また、ネペンテス自生地探検ツアーを企画しますので、というか帰国して一か月もたっていないのに、もう来年の自生地ツアーの計画を進めています。来年の自生地探検ツアー参加希望の方は、今日から準備を始めましょう!!